



榎谷棚田の全景

榎谷棚田は、面積3ha、田圃257枚を数える規模であるが、耕作者は10戸を切るまで減少し、高齢化によって荒廃が危惧される状況であった。そのようななか、早稲田大学名誉教授中島峰広氏（棚田ネットワーク）らの呼びかけに応え、地元住民と一般市民によって榎谷棚田保存会が立ち上がり、活動が始まった。

榎谷棚田保存会は、次の3つを基本軸に保存活動を展開している。まず一つ目は、棚田写真展、田植え祭、収穫祭などのイベントを通じ、榎谷棚田の存在と保存の意義を広く一般に知らせる広報活動である。平成27年開催の棚田写真展には4日間で1000人もの観覧者を数え、田植え祭や収穫祭には一般市民が70人以上も参加する盛況ぶりであった。また、えひめ地域政策研究センターの助成により「戒川地区（榎谷棚田）案内図」を作成し、棚田を広く紹介するツールとして活用している。二つ目は、棚田の維持活動である。実際に耕作放棄されようとした棚田15aを保存会有志らが「棚田お手伝い隊」を結成し耕作を行い、さらに収穫された棚田米を「壺神米」と銘打ち販売し、活動資金にあてている。この活動には、地元地域だけではなく、大洲農高生やJA愛媛たいきもも参加・協賛し取組んでいる。三つ目は、地域づくり活動である。棚田保全のためには、人が暮らし続けられ、地元収入が増える地域づくりが不可欠である。

この戒川地区は旧大洲街道の沿道に当たり、室町時代に遡る滝山城址や盤砦禅師にまつわる旧蹟、隠れキリシタン伝説など歴史文化の香りに満ちている。また、壺神山は、海（伊予灘）からわずか4kmの位置にありながら、1000m近い標高を有する急峻な山系であり、自然観察、登山、森林浴などの活動フィールドを提供し得る自然環境を有している。これからは、これら歴史文化遺産と豊かな自然という地域資源の活用も視野に入れながら、棚田保存活動を継続していきたいと考えている。

◆榎谷を含む戒川地区の地域資源と「これから」

大洲市戒川の榎谷棚田は、壺神山（標高971m）の中腹、標高500mの西麓に広がる棚田であり、「隠れ里」というにふさわしく、知る人ぞ知る存在であった。しかし、最近、その景観の素晴らしさや歴史的意義が注目され、保存活動が動き始めている。

榎谷棚田保存会は、次の3つを基本軸に保存活動を展開している。まず一つ目は、棚田写真展、田植え祭、収穫祭などのイベントを通じ、榎谷棚田の存在と保存の意義を広く一般に知らせる広報活動である。平成27年開催の棚田写真展には4日間で1000人もの観覧者を数え、田植え祭や収穫祭には一般市民が70人以上も参加する盛況ぶりであった。また、えひめ地域政策研究センターの助成により「戒川地区（榎谷棚田）案内図」を作成し、棚田を広く紹介するツールとして活用している。

平成28年度から、大洲市と連携して棚田オーナー制度が導入されることとなった。また、地元物産を使った郷土料理の研究活動も戒川地区の女性陣を中心に始まっている。



収穫祭の記念撮影

榎谷棚田保存事業報告

天空の棚田を後世に残し伝える

◆榎谷の棚田

◆棚田保存の活動

（大洲市）
榎谷棚田保存会

代表 城本 誠一

